



2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年5月14日
東

上場会社名 Kudan株式会社 上場取引所
 コード番号 4425 URL <https://www.kudan.eu/japan/>
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 項 大雨
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 飯塚 健 (TEL) 03-4405-1325
 定時株主総会開催予定日 2021年6月25日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2021年6月25日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家及び証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期の連結業績(2020年4月1日~2021年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期	127	△72.0	△451	—	△1,575	—	△1,608	—
2020年3月期	456	21.3	9	△92.4	△12	—	△29	—

(注) 包括利益 2021年3月期 △1,662百万円(—%) 2020年3月期 △28百万円(—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年3月期	△214.97	—	△135.3	△107.1	△352.9
2020年3月期	△4.17	—	△3.2	△1.1	2.1

(参考) 持分法投資損益 2021年3月期 △1,232百万円 2020年3月期 —

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり当期純損失のため記載しておりません

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期	1,540	1,458	94.4	189.32
2020年3月期	1,402	923	65.9	130.27

(参考) 自己資本 2021年3月期 1,454百万円 2020年3月期 923百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年3月期	△349	△705	1,777	1,230
2020年3月期	△130	△739	503	496

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)	
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			円 銭	%
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—	
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—	
2022年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—	

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	300～ 350	134.6～ 173.7	—	—	—	—	—	—	—

2022年3月期の連結業績予想につきましては、継続して海外中心に新型コロナウイルスによる感染症の拡大が継続し、すでに獲得している継続案件の今後の進捗及びグローバルの各拠点における新規案件の獲得水準に一定の不確実性がある状況を考慮し、レンジ形式による売上高の開示としております。営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益については、今後の新型コロナウイルスに関する影響や事業開発の拡大状況等を考慮し、アーティゼンス社との一層の事業統合・新規採用を含む新規投資を機動的かつ柔軟に実現するため、具体的な金額の予想については現時点で開示しない方針とさせていただきます。

詳細につきましては、添付資料「（5）今後の見通し」をご覧ください

※ 注記事項

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

新規 一社（社名） 除外 一社（社名）

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

（3）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2021年3月期	7,680,800株	2020年3月期	7,091,400株
2021年3月期	85株	2020年3月期	48株
2021年3月期	7,484,366株	2020年3月期	7,031,841株

（参考）個別業績の概要

1. 2021年3月期の個別業績（2020年4月1日～2021年3月31日）

（1）個別経営成績（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期	292	12.8	△50	—	45	—	△1,695	—
2020年3月期	259	76.0	△29	—	△46	—	△63	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期	△226.40	—
2020年3月期	△9.10	—

（注）潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり当期純損失のため記載しておりません。

（2）個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期	1,530	1,469	95.7	190.69
2020年3月期	1,454	931	64.1	131.41

（参考）自己資本 2021年3月期 1,464百万円 2020年3月期 931百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当社グループの事業に影響を与える経営環境に対する評価	2
(2) 当期の経営成績の概況	2
(3) 当期の財政状態の概況	2
(4) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(5) 今後の見通し	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	6
(3) 連結株主資本等変動計算書	8
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	9
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(セグメント情報)	10
(1株当たり情報)	10
(重要な後発事象)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当社グループの事業に影響を与える経営環境に対する評価

当社グループは、機械（コンピュータやロボット）の「眼」に相当するAP(人工知覚)のアルゴリズムを専門とするDeepTech（深層技術）の研究開発を行っております。AP(人工知覚)は機械の「脳」に相当するAI(人工知能)と並んで相互補完するDeep Tech（深層技術）として、機械を自律的に機能する方向に進化させる技術であります。今後幅広い産業での応用と普及を見込んでおり、特定の技術領域や産業での利用に限定されず幅広い範囲で引続き高成長が見込まれると考えております。

このような状況下、当社グループはAP(人工知覚)の基幹技術の一つであるSLAM の独自開発を続けており、AI(人工知能)やIoT (Internet of Things) との技術融合に向けたMachine Perception（機械知覚）、Deep Perception（深層知覚）及びNeural Perception Network（知覚ニューラルネットワーク）に関する研究開発も進めてまいりました。半導体メーカーや技術商社・インテグレータを含む国内外の先端技術企業との提携の拡大もあり、ToFセンサーとのセンサーフュージョン等SLAMをソフトウェアライセンス化した更なるアルゴリズム性能の高度化・機能向上に加えて、新しいソフトウェア技術としてLiDAR SLAMの提供を開始するなど、販売チャンネルと技術ラインナップの拡大は順調に進捗しております。

2020年11月には、グローバルにおける機動的な執行体制及びDeep Tech（深層技術）投資を中心とした中長期とSLAM商用化ライセンス拡大に向けた短期の2軸における経営体制を更に強化するため、複数代表取締役体制へと移行いたしました。当社取締役COOであった項大雨が代表取締役CEOに就任、当社グループの事業経営を統括し、創業者である代表取締役大野智弘は、創業メンバーである当社CTO John Williamsと共に短期的な商用化ライセンス拡大に加えて、中長期における非連続的な成長に向けてのM&Aを含むDeep Tech（深層技術）の強化及び同領域の拡大を担当いたします。また、代表取締役CEOである項大雨が当社グループ会社独ミュンヘン工科大学発コンピュータビジョン企業Artisense Corporation（本社：米国カリフォルニア州、以下、「アーティセンス社」といいます。）の取締役CEOを兼任することにより、Kudan SLAMとは異なるDirect Visual SLAMという別アプローチによる次世代アルゴリズムに加えて、Gaussian-Newton net（GN-Net）と呼ばれる深層学習との融合技術を強みとするアーティセンス社とのグループ一体としての技術連携を加速し、アルゴリズム性能の更なる向上の実現を図るほか、より高度な技術応用と市場の開拓・拡大を目指してまいります。

市場の成長性が極めて高い自動運転領域、モバイルセンサー領域、デジタルマップ領域や、一度採用されることで技術が広範囲かつ爆発的に拡散されることが見込まれる半導体・センサー領域を中心に事業開発のターゲット先の大型化・集中を引き続き徹底すると共に、アーティセンス社との連携を含むグローバルでの顧客基盤の拡大やDeep Tech投資の案件リサーチの拡充を継続してまいります。

(2) 当期の経営成績の概況

アーティセンス社との技術統合により、グローバルでの技術優位性において従来より築いてきた AP（人工知覚）における專業独立企業としての独占的なポジションをより強化することができ、累積案件数の幅・件数拡大と同時に中長期的な製品化の早期化及び収益機会拡大に寄与する案件ポートフォリオの質の向上も達成しました。一方で、SLAM技術評価・製品化検討案件から製品化を見据えた事業領域・大型案件への注力により、技術的なフィット（技術視点での顧客製品企画への適性とそれに伴う最終製品化の見込み）ないし注力領域の範囲外の案件継続の減少が生じております。また、新型コロナウイルス感染症の影響やアーティセンス社を中心とする一部研究開発スケジュールの遅延による案件の予算縮小・凍結や遅延が生じ、第4四半期以降はアーティセンス社の新技術である『VINS（Visual-Inertial Navigation System）』の提供開始及び当社との共同案件の増加、市況の回復により売上高の回復が続いているものの、当連結会計年度全体としては対前連結会計年度で売上高が大きく減少する結果となっております。

グローバル規模での体制拡大に伴い、販売費及び一般管理費は488,582千円（前年同期比20.1%増）に増加し、主な内訳は人件費206,045千円、経費及び償却費184,352千円、研究開発費98,185千円であります。

その他、急激なポンド・ユーロ高に起因する為替差益96,705千円、アーティセンス社に対する投融資の評価減及び期中損益の取り込みによる持分法による投資損失1,232,246千円が発生しております。

この結果、当連結会計年度の売上高は127,864千円（前年同期比72.0%減）、営業損失は451,171千円（前年同期は営業利益9,378千円）、経常損失は1,575,840千円（前年同期は経常損失12,341千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は1,608,900千円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失29,320千円）となりました。

なお、当社はAP事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(3) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における流動資産は1,359,662千円（前連結会計年度末比667,828千円増）となりました。これは主に、現金及び預金が増加（同734,509千円増）、売掛金が減少（同115,596千円減）したことによるものであります。

また、固定資産は180,677千円（前連結会計年度末比523,398千円減）となりました。これは主に、投資有価証券（同303,887千円減）及び長期貸付金（同212,108千円減）が減少したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は1,540,339千円（前連結会計年度末比138,005千円増）となりました。

(負債)

当連結会計年度末における流動負債は81,881千円（前連結会計年度末比231,770千円減）となりました。これは主に、ファンズ株式会社が運営する「Funds」による資金調達の返済により預り金が減少（同236,477千円減）したことによるものであります。

また、固定負債は一千円（前連結会計年度末比164,824千円減）となりました。これは長期借入金（同164,824千円減）が減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は81,881千円（前連結会計年度末比396,594千円減）となりました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は、1,458,458千円（前連結会計年度末比534,599千円増）となりました。これは主に、株式発行に伴う資本金及び資本準備金の増加（計2,220,078千円増）、親会社株主に帰属する当期純損失（1,608,900千円）によるものであります。

(4) 当期のキャッシュ・フローの概況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、349,811千円の支出（前年同期は130,798千円の支出）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失1,600,129千円及び持分法による投資損失1,232,246千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、705,604千円の支出（前年同期は739,124千円の支出）となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出478,505千円及び貸付けによる支出217,140千円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは1,777,535千円の収入（前年同期は503,355千円の収入）となりました。これは、主に株式の発行による収入2,210,586千円、預り金の返済による支出235,964千円及び長期借入金の返済による支出207,832千円によるものです。

以上の他、現金及び現金同等物に係る換算差額の影響もあり、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末と比べ734,509千円増加し、1,230,979千円となりました。

(5) 今後の見通し

2022年3月期につきましては、アーティセンス社との更なる新技術の投入を含めた事業統合の一層の推進、グローバルでの半導体メーカーやセンサ企業との提携及び共同開発による顧客製品化の加速を通じて、2021年3月期第4四半期以降の収益拡大基調の継続を進めると共に、技術的なフィット（技術視点での顧客製品企画への適性とそれに伴う最終製品化の見込み）ないし注力領域の範囲への案件の絞り込みを継続し、中長期での製品化案件の早期の実現及び収益機会の拡大を引き続き目指してまいります。

以上から、2022年3月期の連結業績予想につきましては、継続して海外中心に新型コロナウイルスによる感染症の

拡大が継続し、既に獲得している継続案件の今後の進捗及びグローバルの各拠点における新規案件の獲得水準に一定の不確実性がある状況を考慮し、売上高は300,000千円～350,000千円（前年同期比34.6%～73.7%増）を計画しております。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益については、今後の新型コロナウイルスに関する影響や事業開発の拡大状況等を考慮し、アーティセンス社との一層の事業統合・新規採用を含む新規投資を機動的かつ柔軟に実現するため、具体的な金額の予想については現時点で開示しない方針とさせていただきます。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。国際財務報告基準の適用については未定であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	496,470	1,230,979
売掛金	191,206	75,609
たな卸資産	—	24,955
その他	4,158	28,117
流動資産合計	691,834	1,359,662
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	1,005	0
工具、器具及び備品(純額)	5,418	0
車両運搬具(純額)	—	0
有形固定資産合計	6,423	0
投資その他の資産		
投資有価証券	305,866	1,979
長期貸付金	388,862	176,753
差入保証金	8,229	1,943
その他	1,116	—
投資その他の資産合計	704,075	180,677
固定資産合計	710,499	180,677
資産合計	1,402,334	1,540,339
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	43,008	—
買掛金	—	30,129
未払金	7,095	6,392
未払法人税等	4,307	23,301
受注損失引当金	—	3,988
預り金	238,725	2,247
その他	20,514	15,823
流動負債合計	313,651	81,881
固定負債		
長期借入金	164,824	—
固定負債合計	164,824	—
負債合計	478,475	81,881
純資産の部		
株主資本		
資本金	510,316	1,620,355
資本剰余金	510,316	1,620,355
利益剰余金	△119,533	△1,755,918
自己株式	△335	△452
株主資本合計	900,764	1,484,340
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△7,910	—
為替換算調整勘定	31,004	△30,227
その他の包括利益累計額合計	23,093	△30,227
新株予約権	—	4,344
純資産合計	923,858	1,458,458
負債純資産合計	1,402,334	1,540,339

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
売上高	456,343	127,864
売上原価	40,199	90,453
売上総利益	416,144	37,410
販売費及び一般管理費	406,765	488,582
営業利益又は営業損失(△)	9,378	△451,171
営業外収益		
受取利息	1,129	12,660
為替差益	—	96,705
その他	41	4,310
営業外収益合計	1,170	113,676
営業外費用		
支払利息	1,047	1,035
支払手数料	1,952	2,088
為替差損	18,977	—
株式交付費	913	2,974
持分法による投資損失	—	1,232,246
営業外費用合計	22,890	1,238,345
経常損失(△)	△12,341	△1,575,840
特別損失		
減損損失	—	18,035
投資有価証券評価損	15,993	2,026
持分変動損失	—	4,227
特別損失合計	15,993	24,289
税金等調整前当期純損失(△)	△28,335	△1,600,129
法人税、住民税及び事業税	985	8,771
法人税等合計	985	8,771
当期純損失(△)	△29,320	△1,608,900
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△29,320	△1,608,900

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	△29,320	△1,608,900
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,910	7,910
為替換算調整勘定	8,481	△40,100
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△21,131
その他の包括利益合計	571	△53,320
包括利益	△28,748	△1,662,221
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△28,748	△1,662,221
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
						その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	479,912	479,912	△90,213	—	869,611	—	22,522	22,522	—	892,134
当期変動額										
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△29,320		△29,320					△29,320
持分法適用会社の増加に伴う利益剰余金減少高			—		—					—
新株の発行	30,404	30,404			60,808					60,808
自己株式の取得				△335	△335					△335
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△7,910	8,481	571	—	571
当期変動額合計	30,404	30,404	△29,320	△335	31,152	△7,910	8,481	571	—	31,723
当期末残高	510,316	510,316	△119,533	△335	900,764	△7,910	31,004	23,093	—	923,858

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
						その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	510,316	510,316	△119,533	△335	900,764	△7,910	31,004	23,093	—	923,858
当期変動額										
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△1,608,900		△1,608,900					△1,608,900
持分法適用会社の増加に伴う利益剰余金減少高			△27,484		△27,484					△27,484
新株の発行	1,110,039	1,110,039			2,220,078					2,220,078
自己株式の取得				△117	△117					△117
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						7,910	△61,231	△53,320	4,344	△48,976
当期変動額合計	1,110,039	1,110,039	△1,636,385	△117	583,576	7,910	△61,231	△53,320	4,344	534,599
当期末残高	1,620,355	1,620,355	△1,755,918	△452	1,484,340	—	△30,227	△30,227	4,344	1,458,458

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失(△)	△28,335	△1,600,129
減価償却費	2,100	5,151
為替差損益(△は益)	19,555	△98,992
受取利息	△1,129	△12,660
支払利息	1,047	1,035
株式交付費	913	2,974
投資有価証券評価損益(△は益)	15,993	2,026
持分法による投資損益(△は益)	—	1,232,246
減損損失	—	18,035
持分変動損益(△は益)	—	4,227
受注損失引当金の増減額(△は減少)	—	3,988
売上債権の増減額(△は増加)	△145,104	117,460
たな卸資産の増減額(△は増加)	374	△32,052
仕入債務の増減額(△は減少)	—	30,129
その他	5,368	△21,206
小計	△129,215	△347,765
利息の受取額	9	9
利息の支払額	△1,308	△774
法人税等の支払額	△290	△1,282
法人税等の還付額	5	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	△130,798	△349,811
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,371	△15,494
投資有価証券の取得による支出	△329,771	△478,505
敷金及び保証金の差入による支出	△7,264	△490
敷金及び保証金の回収による収入	2,596	6,818
資産除去債務の履行による支出	△1,701	△792
貸付けによる支出	△395,612	△217,140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△739,124	△705,604
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	215,000	—
長期借入金の返済による支出	△7,168	△207,832
預り金の受入れによる収入	235,964	—
預り金の返済による支出	—	△235,964
株式の発行による収入	59,894	2,210,586
自己株式の取得による支出	△335	△117
新株予約権の発行による収入	—	10,862
財務活動によるキャッシュ・フロー	503,355	1,777,535
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,230	12,390
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△371,798	734,509
現金及び現金同等物の期首残高	868,268	496,470
現金及び現金同等物の期末残高	496,470	1,230,979

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループの事業セグメントは、AP事業のみの単一セグメントであり、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
1株当たり純資産額	130円27銭	189円32銭
1株当たり当期純利益金額	△4円17銭	△214円97銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	—	—

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり当期純損失のため記載していません。

(注2) 1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額又は潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
1株当たり純資産額		
純資産の部の合計額(千円)	923,858	1,458,458
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	—	4,344
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	923,858	1,454,113
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	7,091,352	7,680,715
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	△29,320	△1,608,900
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額(千円)	△29,320	△1,608,900
普通株式の期中平均株式数(株)	7,031,841	7,484,366
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在 株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。